

てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

埼玉県てんかん診療拠点機関におけるてんかん診療実態調査

研究分担者：山内 秀雄 埼玉医科大学小児科

研究要旨

埼玉県てんかん診療拠点機関である埼玉医科大学病院における 2020 年度のてんかん実績を調査し、過去の実績と比較検討した。受診患者数、受診患者男女比、長時間ビデオ脳波検査実施数、手術件数はそれまで漸増傾向にあったが、2020 年度はいずれも著減しており SARS-CoV2 パンデミックの影響であると考えられた。

A. 研究目的

埼玉県てんかん診療拠点機関である埼玉医科大学病院のてんかん診療実態を調査することによって、埼玉県におけるてんかん診療の問題点について考察する。

B. 研究方法

2020 年度の埼玉医科大学病院におけるてんかん実績を受診患者数、受診患者男女比、長時間ビデオ脳波検査実施数、手術件数について後方視的に調査した。

（倫理面への配慮）

患者個人情報に十分配慮して施行した。

C. 研究結果

2019 年の患者受診受診患者数は入院 126、外来 1134 と軽度の増加傾向であったが、2020 年度は入院 48、外来 921 と前年度の 38%、81%に減少した。受診者年齢については 2017 年度では成人：小児比が 1.74：1.00 であったが、2020 年度のそれは 1.66：1.00 であり成人の受診比率がやや減少する傾向を認めた。入院による長時間ビデオ脳波検査は 2019 年度 246 件であったが、2020 年は 59 件に減少した。2020 年度のてんかん手術件数は 0 件であった。

D. 考察

2020 年度がこれだけでてんかん診療の実績が低下した理由として、SARS-CoV2 感染症感染拡大により患者の受診への多大な影響があったこと、病院

内での医療従事者の SARS-CoV2 感染疑いの影響などなどが理由として考えられた。

E. 結論

2020 年度の埼玉県てんかん診療拠点機関のてんかん診療実績は著明に低下したが、SARS-CoV2 パンデミックの影響が大きいと考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表**1. 論文発表**

山内秀雄、池田昭夫. てんかん診療の多様性と均てん化. 精神科 2020 ; 36(6) : 471-477

菅野秀宜、原恵子、前澤聡、中野美佐、安元佐和、山内秀雄. 都市部におけるてんかん診療連携の現状と問題点、その課題と方策について. てんかん研究 2020;37(3):755-765.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況**1. 特許取得**

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし